エレナ・レーリヒの手紙

1929年9月11日

人々はさまざまなサイキック的・霊媒的現象についての質問と指摘をたずさえて、それらがアグニヨガの現れだと思ってあなたのところへ来るでしょう。ですので、教えの本と講和から引用して、その違いを明らかにしてみましょう。

「アグニヨガの生命の息吹（spirit）は、私たちを高い領域に結びつけ、〔宇宙磁石〕の流れに私たちを結合させる。火の質は、磁石の引っ張る力により確立される。霊の磁石は、顕現し得る段階を決定する。同じ原理が中枢への点火に導く」。

「意識が低い界にある霊は、より高次の中枢に火をともすことはできない。最高のものだけが、最高のものを引き寄せる。したがって、物質的な努力しかない所には、それに相当する受容力と結果があるだけだろう。アグニヨガの新時代が近づく中で、力強く送られたメッセージの原理を知ることが必要である。自然界には、限度のある直接的な一致もある。最良のものだけが、最良のものを同化できる。それは磁石の原理だ。最高のエネルギーの原理が、最も高く発達したアグニヨギの特徴であるように、肉体の受容力が一致する現れを決める。押しつけられたすべてのもの、誇張した粗悪なすべてのもの、物質的に現れたすべてのものは、精妙な原理よりも劣っている」。

「アグニヨガは最高のバランスを保っている。アグニヨギの霊の無私無欲の創造性は、普遍的な相互関係へと導き、その結果、中枢の不均衡と不調和が平衡になる。教えはこれらの微妙な違いにしばしば触れる。したがって、次の段階へと進むために、低級な現象の不均衡さと最高の調和の美を理解することが大事である。アグニヨギの性質はたいへん高いので、霊媒的現象と比較するのは火の聖杯に濁った水の１滴を入れるようなものだろう。したがって私は言おう、高級な火の理解は人を清い火の高所へ導くだろう、と。アグニヨギは新しい人種を集める人である。彼は新しい人種の霊たちを集めながら、高い領域で働く。アグニヨギの火の現れは、高い領域におけるのと同じようにこの世で目的がある。よって、アグニヨギは諸世界間を結びつける繋ぎ手である」。

「さまざまな目的のために与えられ、進化の原動力によって確立された人間の手段の正確な違いは、人々の意識によって同化されるべきだ。我々が火の変質について話す時、宇宙磁石の最も緊張した火の確定が受け入れられるべきだ。アグニヨギの霊のすべての創造的エネルギーを人類が理解して始めて、その人の全中枢が宇宙的な出来事に反応して振動すると言える。単純な視覚的印象のために使われる人間の道具は、宇宙のすべての息を反映する現れとはとても比較できるものではなかった。だから、アグニヨガに向かって努力しているすべての人に、開いた中枢についての最も深い理解に達してもらおう」。

「実に、霊媒は中枢が開いていない。そしてそのサイキック的視力も高級世界と接触していない。人類は霊媒の力について誤った考えを持っている。人々がいかにサイキック現象に惑わされるかを見て我々は動揺する。物質界の物質化現象は磁石として引き寄せる」。

ですので、そのように述べられるのならば、霊媒の最も低い中枢を働かせるのは通常、彼らの稚拙な緊張によります。たいていそれは強制的な現象で、中枢を開くことではなく、ただ彼らを一時的な点火に至らせるだけです。けれどもアグニヨギの火は本当に開かれている最高の中枢に火をともすことによるものです。

厳密に言えば、低級な中枢というものはなく、アグニヨギは自分の「低級な」中枢を最高の火で変質したのです。けれどもこの変質は最高の中枢に火をともした後に起こり、その次にすべてのいわば「低級な」中枢は太陽神経叢に従属します。私たちはまた、これらの火の段階あるいはむしろそれらの質が、ちょうど宇宙のすべてのもののように無限に洗練されるのを忘れてはなりません。けれどもアグニヨギの決意の中で、ある原理が疑いありません。それは総合の原理です。聖杯の総合なくして火をともすことはできません。この原理によって、あなたはすでに火の性質を決定することができています。

ですからあなたは中枢に点火する現れと、低級なサイキック的現象とを識別することができる主なしるしがわかりますね。「アグニヨギは聖杯の総合体の運び手である。このしるしによって判断できる」。それゆえ、美の理解と「人生の教え」の智慧の真の理解と、ハートでそれを同化することで、あなたの聖杯を満たしなさい。そして覚えておいてください、ハートがあらゆる知識、あらゆる可能性、あらゆる達成を引き寄せる偉大な磁石であることを。アグニヨギは自分自身が研究室なので、アグニヨギの現すことには何も強制されることはない、ということも覚えておいてください。彼は自分の霊の力で、自分の火を変質させます。師匠は意識を広げるために教えを示しますが、弟子は自らそれを適用しなければなりません。中枢の火が大火事になる恐れのある時、師匠は中枢をソーマの層で覆うことによって発火の過程を見守ります。けれども、弟子の側の霊の関与がなければ、変質は不可能です。

もちろん、あなたの返答に気をつけなければなりませんし、特に質問者に与えられた定義に注意しなければなりません。師匠によって与えられた次の原則を常に覚えておく必要があるからです。「返答は医者の光線のようでなければならず、棺桶の釘のようであってはならない」。人々の意識のレベルを考慮して、「干渉しない」ことが必要です。真の理解を、注意深く広げることで達成するのは可能です。けれどもこれはたいへん長いプロセスであることが多く、その上「偉大な師匠」が私たちに示すのと同じような忍耐力を示すことが必要です。始めには誰もが自分の能力の認識と激励を必要とします。怖がらせて追い払うことはたやすく、支えてあげることは難し、ですが「偉大な師匠」は新来者をつなぎとめるよう教えます。その上、時には大いに蓄積のある霊が、ある明確な目的のために霊媒的な有機体の構造を身にまとうかもしれません。そして、強い意志の発達を通して、「偉大な師匠」に助けを借りて、無意識の現れを克服し意志に服従させることができます。ですがそれは容易なことではありません。

＊ ＊ ＊

私たちは困難な時期を経験していますが、そのことを喜びとともに思い出し、同時に難しい行為だけが力を発達させられることを思い出しましょう。音楽家の技能も、全部の指が痛むまで絶えず練習した後で初めて上達するのです。